



Title	回轉扉
Author(s)	辻, 勝流
Citation	大阪公衆衛生. 1973, 30, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/84278">https://hdl.handle.net/11094/84278</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪市の分合区の話し合いの席上で、市民の方々から、保健所設置のことに強い関心が示され、我々関係者は望外のよろこびと今後の活動に対し意欲を感じている。

C・E・A・ウインスローが「公衆衛生とは、地域社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、延命をはかり、さらに、身体的、精神的健康と能率を増進するための科学であり、技術である、」と定義している。かかる見地にたつて、私共の先人達はそれぞれの立場から使命感に溢れた活動を行い、公衆衛生の向上に努めて来たが今日私共の自成一の糧となる点が多いにあると思える。

いうまでもなく、公衆衛生は社会変貌の強い影響を受ける歴史を示しているが、現在も社会変動に即した努力が試みられている。特に個人権利を土台においた住民意識の変化は心にとめて業務をすすめる必要が感じられる。この点畑山先生の講演記丁に私共は種々ご教示を受ける。

さらに現今、公害、精神衛生、老人、母子等が緊急事としてとりあげられているが、保健所活動の中で従前からの結核、栄養、疫学・衛生統計・食品衛生等の重要性はゆるがないもので、そういう方面に熱意をもっている人々の意見に耳を傾けたい。かかる点からも本誌の「てい談」の熟読玩味をおすすめしたい。

また、保健所活動は機構的にも、人的面でも多種多様の業務を含み、多種職種の協力によって行われている。相互の理解と協力によって初めて推進されるものである。受け持つ仕事の軽重なく、生きがいのある職場として、ことをすすめたいものである。今は主として、技術関係職員の不足が露呈しているが、保健所の日常活動を通じ、事務職員の領域を高く評価したい。

ご承知の通り、保健所のあり方について中間答申があり、都市保健所問題の研交会活動もある。今後の保健所活動に資すること大だが、その前途は容易ならぬものがある。しかし冒頭に述べた如く、府民、市民の保健所活動に期待する向きは強い。私共は先輩に負けない努力を続け、これにこたえたい。この意味において「大阪公衆衛生」誌のご発展を祈念するものである。

(大阪市保健所長会長)